令和元年５月 第１回定例庁議

１　開催日時　令和元年５月７日（火）午前９時３０分～午前１０時４０分

２　開催場所　本館３階「特別会議室」

３　付議事項（第６条）

⑴ 指示事項（市長の指示、注意等）

10 連休や改元、お城まつりなど、年度初めで自身の業務が落ち着かない中で様々な対応が必要だったと思うが、各部の時間外勤務などの状況や職員の感想を確認し、気になることがあれば市長報告をあげていただきたい。

後ほど秘書政策課より業務改善についての説明があると思うが、職員数に限りがあるなかで多くの業務をこなすには、これまでどおりのやり方では厳しいものがある。定員管理や組織のあり方、仕事のやり方の改革に取り組み、新庁舎での体制に向けて業務をすっきりと整理して市役所が生まれ変わるようにしたい。そのための議論をする１年となるだろうが、将来に向けた業務改善に力を入れていくので、各部長もそのつもりで業務の見直しに取り組んでいただきたい。

⑵　審議事項（市行政運営の基本方針、総合計画、重要議案、主要事業計画等の策定及び調整に関すること）

①史跡快天山古墳保存活用計画について（教育部長）

原案について審議していただく予定だったが、附属機関の史跡快天山古墳保存整備委員会より数箇所指摘があったため、修正を加えて再度諮ることとしたい。

⑶　報告事項（市政に重大な影響を与える法令等の制定改廃、国及び県の動向、又は重要な事務事業の進行状況に関すること）

なし

４　その他

①　情報発信についてのお知らせ（市長公室長）

かねてより市議会等からも指摘されている庁内施策の縦割りの課題、部局間の連携について、政策パッケージという視点から、ある目標に対して色んな部局が取り組んでいる施策を一つにまとめるなど、見せ方の工夫について秘書政策課で検討している。今回は、「家庭でできる防災・減災対策」、「地元定着・回帰促進プロジェクト」の２点を提案している。今後も市民が見やすく情報が得られやすい情報提供のあり方を検討していく。

・「家庭でできる防災・減災対策」は、各部局にまたがる防災・減災に関する取組を一つのチラシにまとめて、関係部局の窓口に設置し、相互の情報発信の効果促

進を図るもので、「地元定着・回帰促進プロジェクト」は、各部局の定住人口施策を一つにまとめてホームページで紹介するものである。（秘書政策課長）

→「家庭でできる防災・減災対策」はタイトルが大きな括りであり、例えば備蓄や避難所に関することなどの情報が漏れているような誤解を招くので、市の支援制度の取りまとめであることわかるよう修正すべきである。（産業文化部長）

→ホームページの掲載箇所がたどり着きにくいので再考が必要。（生活環境部長）

→掲載箇所は、「移住・交流」のタブからもアクセスできるようにすべきである。島しょ部であればリフォーム補助制度があるし、他団体の取組も含めて再度確認が必要。（市長）

→高齢者世帯だと火災警報器の給付制度もある。（こども未来部長）

→防災・減災に関心のある市民に、他の関連する制度を知ってもらいたいのがこの取組の主旨であり、細かい施策まで盛り込みすぎると行政側の意図が薄まる面もある。今回提案した２つの取組については、庁内の意見を集約し、情報の分かりやすさや伝わりやすさも踏まえながら再調整する。（市長公室長）

→見せ方の工夫は発想として良いが、まだまだ役所的な印象を受ける。行政側は、事業や制度の名称から情報発信しがちであるが、その時点で既に市民にとっては分かりにくい。せっかく見せ方の改革に取り組むのであれば、市民からの見え方としてより情報に入っていきやすくなるよう、もう少し砕いて思い切った表現の仕方を検討して欲しい。（市長）

② 業務改善プロジェクトについて（市長公室長）

限られた人員のなかで持続可能な行政運営を行っていくためには、現在の業務を抜本的に見直すしかない。これまでにも事業の見直しや民間活力導入など検討をお願いしてきたが、職員の状況なども踏まえて、改めて「業務改善プロジェクト」として各部長に検討を依頼する。

・「事業の見直しなどを検討したい事業」、「民間活力の活用業務」、「ＩＣＴ（情報通信技術）活用業務」の３点について、それぞれ各部より提案いただきたい。（秘書政策課長）

・庁内に「ＩＣＴ活用研究会」を立ち上げ、研究会でＲＰＡ（Robotic Process Automation：ソフトウェアロボットによる業務自動化）などＩＣＴを活用できる業務について各部からの提案も含めて検討していく。（情報政策室長）

→ＲＰＡがこれまでのＩＣＴと違う点はどこか。（生活環境部長）

→例えば、異なるシステム間のデータ移行など、職員が手作業で行う作業をＲＰＡの技術で省力化できないかといったものが一部の機能。将来的には手書きのものを読み込んで必要項目をデータ化することも目指されているが、その技術は開発途中である。（情報政策室長）

③ 丸亀城石垣修復に向けて「ニッカリ青江公開プレミアムウィーク」（教育部長）

6月1日（土）～6月9日（日）、資料館において丸亀藩京極家家宝のニッカリ青江展示を開催し、観覧料の一部は丸亀城修復に役立てる。崩落した石垣の現状も見てもらい、今後の復旧に対する機運を盛り上げたい。

→前回の反響があるので、今回も満足してもらえるよう、ニッカリ青江にまつわるストーリー、復元刀と本物の違いの紹介など、興味が湧くように内容を充実していただきたい。（市長）

④ 市議会6月定例会の会議日程について（議会事務局長）

全国市長会や全国市議会議長会の関係で、従来と違ってイレギュラーになるが、本会議の質疑後、一般質問よりも先に常任委員会を開催する日程となっており、今後の定例会をどうしていくかについても検討中なので意見をいただきたい。

→質疑を踏まえ、常任委員会に付託して審議する流れがむしろスタンダードではないのか。（市長公室長）

→県内8市の状況は半々で、特にルールはない。最終日の本会議の採決までの期間に変わりはないが、議会、執行部ともに質疑後の検討や調整期間がある程度必要であるため、慎重に検討したい。（議会事務局長）

⑤ 第70回丸亀お城まつりについて（産業文化部長）

報道発表のとおり入場者数は27万人、多数の方に来場いただいた。応援職員の協力にお礼申し上げる。石垣崩落対策本部のＰＲコーナーでは14万562円の募金をいただき、応援募金カンバッジも9万3千円の売上となった。本庁舎ロビーでは、墨絵師の御歌頭（おかず）氏がライブペイントで描いた「京極氏と丸亀城」を展示しているので周知等お願いしたい。

→救急搬送事案は2日間で3件となっている。（消防長）

⑥ 改元日の届出の状況等について（生活環境部長）

5月1日の午後5時までに50組の婚姻届、6件の出生届があった。特設したパネルコーナーは、今後も常設で対応する。

⑦ 10連休中の青い鳥教室の利用状況について（教育部長）

4月30日から5月2日までの3日間、城東と郡家の2教室で臨時に開設し、220名の申込に対して124名の利用があった。

5　副市長から

業務改善プロジェクトについては、職員数の増加が望めない前提で今後増加する業務に対応するには、現在の体制では限界がきているという状況を各部長から所属課長へ十分に伝えていただきたい。特に民間活力の活用では、これまでは民間の

ノウハウが活かせるものや費用低減が図れるものを前面に押し出していたが、今回は労働力の活用という観点からも検討をお願いしている。我々のノウハウでも十分対応できるし、費用は直営の方が安くすむかもしれない、あるいは職員の思いとしても直営で実施する方が十分な行政サービスを提供できる自負があると思う。ただその一方で、他の行政課題にも対応していくために、民間でもできるものがあればそれも検討していくという一歩踏み込んだ基準であることを認識し、考え方を所属課長と共有して提案していただきたい。

6　教育長から

片岡教育委員が 5 月 10 日をもって任期を終えることに伴い、新たな教育委員として松岡氏が就任する。小児科医で発達障がいを専門にしており、現状課題に向けて専門性を活かし、力を発揮していただけると思う。

8　出席状況

⑴　庁議構成者（第５条）

職	氏　名	出欠
市　　長	梶　　正　治	○
副　市　長	徳　田　善　紀	○
教　育　長	金　丸　眞　明	○
モーターボート競走事業管理者	大　林　　諭	×
市長公室長	横　田　拓　也	○
総務部長	栗　山　佳　子	○
健康福祉部長	宮　本　克　之	○
こども未来部長	石　井　克　範	○
生活環境部長	小　山　隆　史	○
都市整備部長	谷　口　信　夫	代
産業文化部長	山　地　幸　夫	○
ボートレース事業局次長	矢　野　浩　三	代
教育部長	川　田　良　文	○
消　防　長	田　中　道　久	○
議会事務局長	渡　辺　研　介	○

⑵　関係職員（第９条）

市長公室職員課長　　井　上　孝　敏

総務部財務課長　　宮　西　浩　二

都市整備部長代理
都市整備部都市計画課長　　吉　本　博　之
ボートレース事業局次長代理
ボートレース事業局経営課長　　向　井　光　平
総務部行政管理課情報政策室長　　樽　本　誠　司

(3) 事務局（市長公室秘書政策課）
市長公室秘書政策課長　　窪　田　徹　也
市長公室秘書政策課副課長　　谷　本　智　子
市長公室秘書政策課政策推進担当長　　野　本　政　宏
市長公室秘書政策課主査　　宇　野　大志郎